

内科的治療—潰瘍性大腸炎—

| 寛解導入療法 | | | | |
|--|---|-----|---|--|
| | 軽症 | 中等症 | 重症 | 劇症 |
| 左側大腸炎型 | 経口剤: 5-アミノサリチル酸(5-ASA)製剤、サラゾスルファピリジン(SASP) 注腸剤: 5-ASA製剤注腸、プレドニゾン注腸、ベタメタゾン注腸 ※中等症で炎症反応が強い場合や上記治療で改善ない場合はプレドニゾン経口投与 ※改善なければ重症またはステロイド抵抗例への治療 | | ・プレドニゾン経口あるいは点滴静注 ※状態に応じ以下の薬剤を併用 経口剤: 5-ASA製剤、SASP 注腸剤: 5-ASA製剤注腸、プレドニゾン注腸、ベタメタゾン注腸 ※改善なければ劇症またはステロイド抵抗例の治療へ ※状態により手術適応の検討 | ・強力静注療法 ※外科医と連携 ※状況が許せば以下の治療を試みてもよい。 ・血球成分除去療法 ・シクロスポリン持続静注療法* ※上記で改善なければ手術 |
| 直腸炎型 | 坐剤: SASP坐剤、ベタメタゾン坐剤 注腸剤: 5-ASA製剤注腸、プレドニゾン注腸、ベタメタゾン注腸 経口剤: 5-ASA製剤、SASP | | | |
| 難治例 | ステロイド依存例 | | ステロイド抵抗例 | |
| | 免疫調節剤: ・アザチオプリン(AZA) ・6-メルカプトプリン(6-MP)* | | 中等症: 血球成分除去療法 重症: シクロスポリン持続静注療法*、タクロリムス経口 ※AZA、6-MP*の併用が望ましい ※改善なければ手術を考慮 | |
| 寛解維持療法 | | | | |
| 経口剤: 5-ASA製剤、SASP 局所製剤: 5-ASA製剤注腸、SASP坐剤 ※ステロイド依存例・抵抗例は難治例の治療を参照 | | | | |

* 保険適応外